

志津地区交通安全会

志津地区交通安全会は、志津学区の住民を会員とし、4名の役員と各町内会から選出された12名の常任幹事、計16名で活動しています。地域の交通安全を守るため、交通安全ポスターの募集・展示・表彰、カーブミラーの清掃や危険個所の点検、保育園・こども園・小中学校での交通安全教室の開催協力、さらには毎日の登下校時の見守り活動などを行っています。

志津学区 は人口と交通量が多いため、地域に根ざした日常的な啓発活動が非常に重要です。今後も関係団体と連携し、安心・安全なまちづくりに全力で取り組んでまいります。

志津地区交通安全会 会長 青木光



高穂中学校の自転車安全教室をサポート

～令和2年に発刊された「ふるさと志津の原風景」より毎回1枚の写真を取り上げて現在までの変化を振り返ります～

志津の里山

志津の今昔写真



里山でかごいっぱい松茸が採れた昭和30年代（岡本町）



岡本町の「山の神」（南平池の奥）



かつての里山は工業・住宅団地へと変貌

昭和30年代、今はダイキン工業株式会社などがある草津工業団地やグリーンヒルの住宅団地、立命館大学BKCになっているあたり一帯は広大な山林で、松茸がたくさん採れました。当時は食事の煮炊きすべては「かまど」で行われ、その燃料は「落ち葉」や「柴」、「松の割木」などを使っており、里山では木の葉かきや柴刈りなど山の手入れがよくされていましたので、赤松林では松茸がよく出ました。人々は山の木々の背後に神の存在を感じ、日々の生活を支えてくれるものとして「山の神」を祀って感謝し、山仕事の無事、農作物の五穀豊穡、町民の無病息災を祈願しました。

昭和40年代になると、プロパンガス等の普及（燃料革命）により、山仕事も不要となり、志津の山手地域一帯が大規模な工業団地や住宅団地として開発され、地域の風景は様変わりし、人々の暮らしぶりも大きく変わり始め、今に至ります。

志津まちづくり協議会では、「里地里山プロジェクト」として、馬場町などに今も点在する里山を活かした志津ならではのまちづくりを展開しています。

編集後記

なかなか秋らしくならない毎日ですが、地域では稲の刈り取り作業がおこなわれ、見事な中秋の名月も眺めることができ、季節は確実にバトンタッチとなります。志津学区においては11月に開催の「志津ふれあい広場」に向けて着々と準備が進められており、そのほかにもたくさんの秋行事が予定されていますので、是非この機会にお出掛けされてみてはいかがでしょうか。（服部）

第51号

令和6年
10月1日
発行

志津まちづくり通信

志津学区人口 14,266人 男：7,371人 女：6,895人（令和6年8月31日現在）



ホームページ



公式LINE友達追加

志津まちづくりトピックス

志津ふれあい広場開催案内

まちづくりセンターの講座参加者募集

各プロジェクトからのお知らせ

しづ・まち・掲示板

志津まち協所属の活動団体紹介リレー

志津の今昔写真

